

令和7年度中部近畿地方鉱山保安協議会中部地区部会議事概要

日時 令和8年3月30日（月） 13時30分～15時30分

場所 中部経済産業局総合庁舎2階大会議室

及びオンライン（Microsoft Teams 会議）によるハイブリッド開催

1. 議事

【報告事項】

（1）中央鉱山保安協議会（令和8年3月25日開催）について

- ①第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について
- ②鉱山における高年齢者の危害防止に係る現状と対応の方向性について
- ③鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について
- ④避雷装置等の新たな日本産業規格の制定に伴う技術指針の改定について
- ⑤産業保安を巡る環境変化を見据えた中長期的な安全確保に向けて
- ⑥海洋鉱物資源開発について
- ⑦金属鉱業等鉱害対策特別措置法施行規則の一部改正について
- ⑧CCS事業法における保安措置の検討状況について

（2）令和7年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取組等について

（3）令和8年度における鉱山保安に係る取組について（案）

【意見交換】

（4）その他

2. 議事概要

【報告事項】

事務局より各事項について報告した。議事は以下のとおり。

○中央鉱山保安協議会（令和8年3月25日開催）について（資料1）

（委員）

- ・中央資料3について、高年齢者へのケアをしていかなければ災害は減らないという話だったと思う。13頁目では鉱業権者及び鉱山労働者の取組として「鉱山保安マネジメントシステムの一層の向上に取り組む」とあるが、これについては特別なチェックフローなど考えているのか。

（事務局）

- ・高年齢者に関する鉱山保安マネジメントシステムにおける特別なフローはないが、各鉱山における高年齢者の人員配置、設備の状況等を踏まえて現況調査を行っていただき、鉱山保安マネジメントシステム全体の向上につなげていくことになろうかと思う。

（委員）

- ・マネジメントシステムのイメージとして、高年齢者へのケアが他の世代の方々の安全管理が向上していくというイメージでお聞きした次第。高年齢者へのケ

アが若手へのケアにおりていくというループが回るようになると良いと思う。

○令和7年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取組等について（資料2）
（委員）

- ・災害情報の10頁目について。罹災者の方は51歳で経験年数が1年6ヶ月と書かれているが、鉱業経験年数としてはどのくらいの方だったのか。

（委員）

- ・関係者としてコメントさせていただく。罹災者は途中入社後、当鉱山で1年6ヶ月経験を積まれたところであった。

（委員）

- ・他業種から途中で入社される方もおり、そうした方への教育指導のやり方が変わってくるので、この方はどうだったのかお聞きした次第。

○令和8年度における鉱山保安に係る取組について（案）（資料3）
質疑なし

【意見交換】

（事務局）

- ・委員からご質問のあった災害事例について、途中で入社される方への教育のやり方が変わってくるという話があったが、これについて参考までにお聞かせいただきたい。

（委員）

- ・教育のやり方についてはケースバイケースである。鉱山未経験の方が入社する場合には、安全について一から教育していくことになる。他方、他の鉱山や碎石場等の採掘現場からお越しになった方については、ベースができていたので一歩進んだところから安全教育をはじめることができる。

（委員）

- ・リスクアセスメントをする際に、他鉱山の災害事例を活用させていただいているが、背景によって対応が全然違って来る。先ほどお伺いした罹災者の経験年数もこうした背景情報の1つかなと思っている。
- ・監督部から提供いただいている災害情報は非常に細かく記載されているが、もう一歩踏み込んだ情報をいただくと、より参考になると思う。

（事務局）

- ・災害情報については2段階に分けて水平展開させていただいている。速報は、同じことがないようにまず展開し、詳細は詳細な内容について展開させていただいている。委員からいただいたご意見も踏まえて、今後の水平展開ができればと思う。

(委員)

- ・弊社では災害0を目指して活動しているが思うようにできないところ。ハード的な対策とソフト的な対策の両方が必要と理解している。
- ・弊社では高齢者に対して、例えば55歳以上の方の体力測定などはやっているが、その先の体力が落ちている方に対してどうしていくかというところは課題。先ほど御紹介のあった危険体感教育について、弊社でも全般的にやっているが高齢者に焦点を当てた取組はこれまでやっていないので、そういったこともやっていきたいと思う。引き続きの情報提供をお願いしたい。

(委員)

- ・DXの関係で要望。添付資料6に参考資料として掲載いただいたとおり、当鉱山では今年度、経産省所管のスマート保安実証支援事業でドローンを導入した。内容としてはドローンの運用企業が遠隔で飛行の申請や法関係の手続をしていただいたうえで当鉱山を飛行し、測量等のデータを当鉱山で活用するというもの。これにより空からみた現場のリスクアセスメントや残壁の点検などができた。台風や豪雨、地震災害時の点検や夏の暑い時期の測量等にも活用できたりすると思う。
- ・来年度から内製化して導入していく流れになっている。課題としては、鉱山関係者にはドローンに関する知識が少ないこと。例えばドローン導入後の機体の登録、飛行申請などの手続関係や免許の必要な飛行とそうでない飛行についてなど、ドローンに関する講習やその他DXに関する講習などがあれば情報提供いただければDXのハードルが下がって良いのではと思う。
- ・DXを進めて作業がなくなればリスクそのものがなくなるので、弊社では取組を進めていきたいと思っている。

(事務局)

- ・DX関係については本省も非常に力を入れており、鉱山における活用方法を検討しているところである。
- ・今回、御社から取組事例として情報を提供いただいたので、是非とも好事例として情報発信に御協力をいただけたらと思う。

(委員)

- ・高齢者対策については、例えばちょっとした段差で躓くということがあると思うが、鉱山は段差だらけであり、本人の危険予知が求められるのではと思う。全ての作業に作業手順書があるわけではないなかで、自身の作業について各個人が意識と能力を高めるということが課題かなと思う。
- ・保安管理マスター制度について。10年以上前からこうした民間資格を活用してくださいということ言われていたと思うが、現状、合格率が3割程度で難しい部類に入ると思う。他の国家資格であれば、10日間の講習がついていたりするが、保安管理マスター制度についてはテキストで独学するしかない。支援があれば合格率が上がるのではと思う。

(事務局)

- ・保安管理マスター試験制度については、ご意見として本省に上げていきたい。

(委員)

・保安管理マスター制度について、当鉱山では有資格者が講師となって勉強会を開催し、何ヶ月も前から準備して受験に臨んでいただくようにしている。1人で勉強するにはテキストも厚く、幅広い知識が求められ難しいと思う。

(委員)

・高齢者対策について、以前は保安教育で対応という形をとられていたと思うが、今回、安全対策に踏み込んだものと理解。具体的な事例があれば共有いただけると助かる。

・保安標語、こども絵画について、当鉱山の近隣の小中学校などからも応募し、賞もいただいております、関係者の意識高揚に役立っていると思う。入賞作品は投票で決定し公表されているが、一方で入選しなかった方の絵画作品などもHPに掲載していただくと応募者も喜ばれ、次回以降の応募にも繋がるのではと思う。

(委員)

・高齢者対策について、弊社では60代後半の方が転倒して骨折する災害があった。高齢者は少し転んだだけでも重傷災害に至る。弊社の労働組合としても新たな視点で巡視をするなどの取組を会社側にお願いしたところ。今後も災害及び対策の事例共有等をお願いできればと思う。

(委員)

・建設業界でもDXが話題。機械にやらせられるところがもっとあれば良いと思う。無人化に向けて、建設業界はかなり投資している。鉱山でも無人化などできる分野があれば国が示すなどできれば良いと思う。

・高齢者対策は業界共通。ある業界では高齢者に運動させて体力をつけさせるなど、発想を変えて高齢者へ投資して能力を向上させてはという議論をしているところもある。注意だけだと難しい部分もあるので、発想を変えても良いかもしれない。

(委員)

・以前は経験の有無、若年齢者が過去の災害傾向として上がっていたが、時代の流れと労働人口の変化により人材不足等により高齢者の事例が出てきた。

・安全に関する考え方は以前と変わってきた。30年、40年前は保護メガネを絶対着用しましょうというルールではなく、落下防止の腰綱がフルハーネスになったりしてきた。

・災害事例で腰を痛めたものについては、罹災者は過去の経験から大丈夫だと思って罹災した側面もあるのではと思う。

・安全に関しては、過去に経験があったとしても、今の時代にあった安全管理を勉強し直す必要があるのではと思う。

・例えば薬品の扱いについても、SDSのシートを見てリスクアセスメントをしなければならなくなっているが、我々が学生の頃はそんなこともなかった。鉱山でも同じようなリスクアセスメントをやっているかと思う。

・このように安全管理については日進月歩であるので、関わる者は年齢、経験にか

かわらず勉強しなければならないと思う。

- ・事務局としても安全管理のあり方についても考えていただけると良いと思う。

(以上)